

科目名 科目コード	療養生活支援実習 I 503	必修科目	3年次2学期	実習	4単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 三橋 睦子				
科目担当者	医学部看護学科 松清 由美子、姜 旻廷、専任教員3名				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>急性の経過をたどる成人期・老年期の対象を全人的に理解し、生命の危機状態から回復に向けた生活を支援するための看護実践能力を修得する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生命の危機状態にある対象および家族への看護に必要な態度を身につけることができる。</li> <li>2) 対象の発達課題をふまえた急激な健康状態の悪化について理解することができる。</li> <li>3) 急激な健康状態の悪化による生体反応を理解し、回復に向けた看護が実践できる。</li> <li>4) 対象と家族がどのように危機的状態について受け止めているかを理解し、不安の緩和に向けた援助を実践することができる。</li> <li>5) 身体機能の変化や喪失が生活様式に及ぼす影響について理解し、対象および家族が受容するための援助ができる。</li> <li>6) 危機的状況にある対象へのチーム医療と保健医療福祉の連携について学ぶ。</li> </ol>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 久留米大学病院で4週間の実習を行う。</li> <li>2) 原則として病棟実習の期間中に対象を1名受け持つ。</li> <li>3) 第1週月曜日の午前に実習学生全員集合し、学内でオリエンテーションを行う。午後より、病棟でオリエンテーションを受け、実習を開始する。</li> <li>4) 第4週の木曜日は学内で午前中に個別に実習のまとめを行い、午後は合同発表、ディスカッションを通して学びを共有する。</li> <li>5) 半日の手術室実習を行う。</li> <li>6) 中央滅菌材料部の見学を行う。</li> <li>7) 3日間の救命救急センター実習を通して高度な医療の実際を見学する。また、学生1～2名が1組となり看護師とともに、対象への生活援助を経験する。</li> </ol> <p>実習期間 平成27年9月～平成28年2月</p>				
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 池松裕子 他：急性期看護論 ヌーベルヒロカワ 2005年</li> <li>2) 雄西智恵美, 秋元典子 (編)：周手術期看護論 第2版 ヌーベルヒロカワ 2009年</li> <li>3) 藤崎 郁 (著) フィジカルアセスメント完全ガイド 第2版 学研 2012年</li> </ol>				
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 系統看護学講座成人看護学2呼吸器 医学書院</li> <li>2) 系統看護学講座成人看護学5消化器 医学書院</li> <li>3) 系統看護学講座成人看護学7脳・神経 医学書院</li> <li>4) 系統看護学講座成人看護学3循環器 医学書院</li> <li>5) 系統看護学講座成人看護学11アレルギー・膠原病・感染症 医学書院</li> </ol>				
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日々の学習（実習）活動や実習記録・レポートなどのポートフォリオ、カンファレンスなどを通して総括評価とする。</li> <li>2) 実習目標（内容）に対する到達度評価とする。</li> </ol>				
実習にむけての準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 療養生活支援論 I, II, III, IV, フィジカルアセスメント, 看護過程 I, II の学習内容を十分に復習して臨んで下さい。</li> <li>2) 生活援助技術 I, II, 診療に伴う援助技術の既修の学習内容を復習し、学内において看護技術を積極的に習熟して臨んで下さい。</li> </ol>				